

基礎・境界 ソサイエティ

ニューズレター

November 2006 No.59



The Institute of Electronics, Information and Communication Engineers

目次	2006年度フェロー称号贈呈式およびESS表彰式報告	1
	平成18年度ESS幹事会メンバー紹介(その1)	4
	ニューズレター投稿のご案内	7
	第20回 回路とシステム軽井沢ワークショップ論文募集案内	8

2006年度フェロー称号贈呈式およびESS表彰式報告



2006年フェロー称号贈呈式の記念写真: 左より上野先生, 田中先生, 遠藤先生, 坂庭ソ会長, 中村先生, 菊池先生

2006年フェロー称号贈呈式報告

金沢大学で開催された2006年ソサイエティ大会(9月19日~9月22日)期間中の9月20日午後4時より, 金沢大学総合教育棟B3講義室にて, 2006年フェロー称号贈呈式が行われた。2006年新フェローは学会全体で62名であり, 基礎・境界ソサイエティ推薦では10名が新フェローとなった。贈呈式では白木庶務幹事の司会のもと, まず坂庭ソサイエティ会長より祝辞があり, フェロー受賞者のこれまでの本学会への貢献に対して感謝の意が表された。次に, 贈呈式に出席された5名の新フェローに, 坂庭ソサイエティ会長よりフェロー盾とフェローバッジが贈呈された。引き続き, 5名の新フ

フェローの各氏より、自らの学会活動・研究活動を振り返られ、今後も本学会へ貢献するとともに、学会の更なる発展を願う旨の挨拶があった。また、同日夕方に別会場で行われたソサイエティ大会懇親会では、他ソサイエティにて称号贈呈がなされた新フェローも集い、歓談の場がもたれた。基礎・境界ソサイエティから受賞された方は以下の通りです(敬称略)。

氏名	貢献内容	最終職歴
田中 邦麿	デジタルデータの高密度記録技術に関する研究と標準化への貢献	帝京平成大学現代ライフ学部情報サイエンス学科 教授
谷萩 隆嗣	デジタル信号処理の研究と発展への貢献	千葉大学工学部情報画像工学科 教授
大石 進一	非線形系の解析と高速精度保証付き数値計算法の研究	早稲田大学理工学術院コンピュータ・ネットワーク工学科 教授
中村 勝洋	誤り訂正符号と暗号の研究開発と実用化に関する貢献	千葉大学理学部数学・情報数理学科 教授
合原 一幸	カオス工学の提唱と非線形現象の解析に関する研究への顕著な貢献	東京大学大学院新領域創成科学研究科 教授
遠藤 哲郎	結合発振器系と位相同期系への非線形理論の応用の顕著な貢献	明治大学理工学部電子通信工学科 教授
上野 修一	グラフ理論とその回路とシステムへの応用に関する研究	東京工業大学大学院工学研究科集積システム専攻 教授
菊池 久和	ウェーブレット変換技術の普及とデジタルフィルタ設計法の発展に対する貢献	新潟大学工学部電気電子工学科 教授
安浦 寛人	大規模集積回路の並列計算方式および実現方式に関する理論的研究	九州大学大学院システム情報科学研究所 教授
國枝 博昭	大規模応用集積システムの設計および設計自動化に関する研究	東京工業大学大学院工学研究科集積システム専攻 教授

平成 18 年度基礎・境界ソサイエティ表彰式報告

9月20日午後4時より開催された2006年フェロー称号贈呈式に引き続き、金沢大学総合教育棟B3講義室にて、平成18年度基礎・境界ソサイエティ表彰式が行われた。平成18年度は特別功労賞1名、功労賞7名、功労感謝状3名の合計11名が表彰された。表彰式では白木庶務幹事の司会のもと、まず坂庭ソサイエティ会長よりソサイエティ表彰の紹介と祝辞があり、受賞者の基礎・境界ソサイエティへの貢献に対して感謝の意が表された。次に、表彰式に出席された8名の受賞者に、坂庭ソサイエティ会長より表彰状および感謝状が贈呈された。引き続き、受賞者を代表して藤井信生氏より、自らのソサイエティへの貢献内容をご紹介いただくとともに、今後のソサイエティの更なる発展と活性化を期待する旨の挨拶があった。また、同日夕方に別会場で行われたソサイエティ大会懇親会で、歓談の場がもたれた。ソサイエティ表彰を受けられた方は以下の通りです(敬称略)。



ソサイエティ表彰式の記念写真：(上段)左より岩田先生，廣瀬先生

(下段)左より田島先生，島村先生，川村先生，坂庭ソ会長，藤井先生，枝廣先生，田岡先生

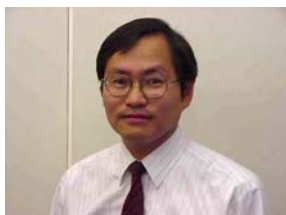
賞名	氏名	貢献内容
特別功労賞	藤井 信生	委員長として大きな国際会議 (ISCAS' 05) を成功に導き，関連分野の発展に貢献
功労賞	大石 進一	NOLTA' 05 への General Co-Chair としての貢献
功労賞	川村 信一	IWSEC2006 General Co-Chair, 英文論文誌特集号 Guest Editor としての貢献
功労賞	岩田 哲	英文論文誌特集号編集幹事としての2年にわたる貢献
功労賞	廣瀬 勝一	「証明可能安全性の枠組」の企画等研究会活動発展への貢献
功労賞	藤岡 淳	「暗号技術の証明可能安全性」の企画等研究会活動発展への貢献
功労賞	枝廣 正人	ソサイエティ独立採算化に向けた財政的準備に対する貢献
功労賞	田岡 智志	回路とシステム軽井沢ワークショップの円滑で効率的な運営に尽力
功労感謝状	市毛 弘一	ソサイエティ独立採算化に向けた円滑な運営に多大な貢献
功労感謝状	田島 正登	英文論文誌編集委員として，迅速かつ多大な編集作業の実行に対する功績
功労感謝状	島村 徹也	英文論文誌編集委員として，迅速かつ多大な編集作業の実行に対する功績

平成 18 年度 ESS 幹事会メンバ紹介(その 1)



中村 勝洋 (なかむら かつひろ, ソサイエティ編集長)

1945 年 2 月生まれ。1967 年東京大学工学部計数工学科 (数理工学) 卒。博士 (工学)。1967 年 NEC 入社。中央研究所配属。データ通信、符号理論、暗号・情報セキュリティ関連の研究開発に従事。情報基礎研究部長、統括部長、主席技師等を歴任。1985 年 UCLA 電気工学科短期客員研究員。2002 年千葉大学理学部数学・情報数理学科教授、現在に至る。A ソ英文論文誌「情報理論とその応用」小特集編集長、情報理論研究専門委員会委員長、基礎・境界ソサイエティ会長、情報理論とその応用学会副会長、SCIS'92, ISITA'04 実行委員長等を歴任。電子情報通信学会フェロー。ひとこと：基礎・境界ソサイエティは、原点に立ち返って技術を考える場、また新たな技術領域を直接・間接的に創生していく場として重要であり、そのため存在し続ける事に意義が有るソサイエティと言われます。そこでは特に人と人との交流が重要であり、そのための情報誌を充実させることが重要であると考えます。そのために微力を尽くしたいと思いますのでよろしくお願いします。



柳澤 政生 (副会長, システムと信号処理サブソサイエティ会長)

1959 年生まれ。1986 年早稲田大学理工学研究科博士後期課程修了。工学博士。1986～1987 年、カリフォルニア大学バークレー校研究員。1987～1991 年、拓殖大学工学部情報工学科助教授。1991 年早稲田大学理工学部、1998 年教授、現在に至る。1999 年～2001 年、基礎・境界ソサイエティ英文論文誌編集幹事。2003 年～2004 年、VLSI 設計技術研究専門委員会委員長。ひとこと：専門は LSI 設計が主ですが、現在では、クジラの個体識別用ソフト・ハードを制作したり、ヒトゲノム解析手法も研究しています。今年度、サブソサイエティ会長を仰せつかりました。サブソサイエティの立場から基礎・境界ソサイエティの発展に微力ですが貢献いたしたく存じます。まずは、会員サービスの充実、そして、ソサイエティ独立採算化です。このとき、サブソサイエティの存在意義を再検討しなければいけないと考えております。



鎌倉 友男 (ソサイエティ副会長)

1976 年名古屋大学大学院工学研究科博士課程修了、名古屋大学助手、講師を経て、1985 年電気通信大学助教授、現在、教授。工学博士。超音波計測、音響エレクトロニクス、非線形音響に従事。非線形音響学の基礎 (愛智出版)、電気回路 (共著、培風館)、音響エレクトロニクス (共著、培風館) 等を執筆。日本音響学会佐藤論文賞 (2003 年)、海洋音響学会論文賞 (2004 年) 受賞。日本音響学会理事 (2001～2005 年)、海洋音響学会理事 (2005 年～現在)、現在、超音波研究会委員長。ひとこと：最近は、音環境の改善や音バリアフリーの研究、音に関連した I T S の研究にも興味を持っています。今年度は音響・超音波のサブソサイエティの会長を兼ねており、このため本ソサイエティの副会長を仰せつかっています。より密な連携のもとでサブソサイエティを運営し、ひいてはソサイエティ全体の発展に微力ながら貢献したいと思っています。



遠藤 哲郎 (ソサイエティ副会長, 非線形理論とその応用サブソサイエティ運営委員長)

1949 年生まれ。1977 年慶應義塾大学大学院工学研究科電気工学専攻修了。工学博士。1977 年防衛大学校勤務。1992 年防衛大学校を退職し、明治大学理工学部電子通信工学科に勤務。現在に至る。1985-1986 年、カリフォルニア大学バークレー校、電気工学コンピュータ科学科客員研究員。本学会基礎境界グループ論文誌編集委員、非線形問題研究専門委員会、幹事、副委員長、委員長を歴任。ひとこと：まだ、新米の副会長でいろいろよくわかりませ

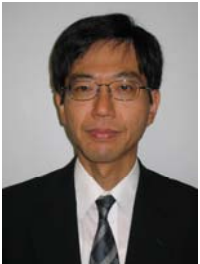
んが、よろしくお願いします。



白木 善尚 (庶務幹事)

1956 年生まれ。1982 年慶應義塾大学大学院工学研究科修士課程修了。博士 (工学)。1982 年 日本電信電話公社 (現 NTT) 入社、音声情報処理や代数的符号理論の研究に従事。2005 年 湘南工科大学 工学部情報工学科 教授 着任、現在に至る。情報理論研究専門委員会委員 (1997-2003 年)、信号処理研究専門委員会委員 (2006 年-)、著作権管理委員会委員 (2006 年-)、教科書委員会委員 (2006 年-)。情報処理学会学会誌編集委員 (2006 年-)、情報理論とその応用学会理事 (2 期目：現国際担当)。ひとこと：昨年までサボり続けてきた学会の仕事。ついにご指名となり 2 年目。幸運なことは、現会長、次期会長とも波長がぴったりあう点。このまま、独立採算化の荒波も一気に乗り越えて……。と、

ここで、妖怪出現予知センサーに異変が…。



関川 浩 (会計幹事)

1963 年生まれ。1989 年東京大学大学院理学系研究科修士課程修了。博士 (数理学)。1989 年日本電信電話(株)入社、ハードウェア設計支援技術の研究を経て、数式処理、数値-数式融合計算の研究に従事、現在に至る。情報処理学会論文誌編集委員会基盤グループ主査。日本数式処理学会総務理事。日本応用数理学会論文誌編集委員。ひとこと：入社して最初に投稿した論文(幸い採録されました)が和文誌 A であり、それ以来、一度大きく研究分野が変わったものの、ずっと A 分野にお世話になっています。今年は幹事 1 年目で見習いですが、来年には恩返しできるよう努力します。

ので、よろしくお願い致します。



高田 豊雄 (大会担当幹事)

1962 年生まれ。1989 年大阪大学大学院基礎工学研究科博士後期課程修了。工学博士。1998 年より岩手県立大学ソフトウェア情報学部教授、現在に至る。本会理論研究専門委員会副委員長、同情報セキュリティ研究専門委員。

ひとこと：みなさんのおかげを持ちましてソサイエティ大会も盛会なものとなりました。総合大会の方のご投稿も是非宜しくお願いたします。



高橋 規一(大会担当幹事)

1968年生まれ。1996年九州大学大学院工学研究科情報工学専攻博士後期課程修了。博士(工学)。1996年九州大学工学部助手, 1998年九州大学大学院システム情報科学研究科情報理学専攻助教授, 2000年九州大学大学院システム情報科学研究科情報工学部門助教授, 現在に至る。ニューラルネットワーク型非線形システムの解析および設計に関する研究に従事。1996年~1997年, 米国カリフォルニア大学パークレー校訪問研究員。非線形理論とその応用学術研究集会運営委員。

ひとこと: 今年度より大会担当幹事を務めています。現在は, 幹事2年目の高田先生の見習いとして仕事内容を勉強させて頂いているところです。春の総合大会, 秋のソサイエティ大会がこれまで以上に魅力的なものになるよう, 少しでも貢献できればと考えています。どうぞよろしくお願ひいたします。



酒井 哲也(ソサイエティ誌担当幹事)

1968年生まれ。1993年早稲田大学大学院理工学研究科修士課程修了。工学博士。1993年(株)東芝入社, 情報検索や言語処理の研究開発に従事, 現在に至る。2000~2001年, 英ケンブリッジ大学コンピュータラボラトリ客員研究員。情報処理学会論文誌(ジャーナルおよびトランザクション: データベース)編集委員。情報処理学会情報学基礎研究会幹事。ひとこと: 専門はD分野で, A分野の事情に疎い人間ですが, 今年は幹事2年目でニューズレターの発行を手がけています。ニューズレター

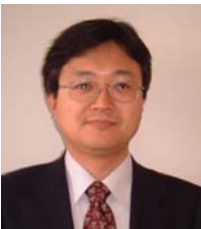
は今後, より内容を充実させていく予定ですので, 皆様も是非ご投稿をお願いいたします!



西尾 芳文(ソサイエティ誌担当幹事)

1966年生まれ。1993年慶應義塾大学大学院理工学研究科博士課程修了。博士(工学)。同年, 徳島大学工学部電気電子工学科勤務。現在, 徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部助教。2000~2001年, スイス連邦工科大学ローザンヌ校(EPFL)訪問教授。非線形回路工学(カオス, 結合発振器, 非線形回路解析, ニューラルネットワーク)の研究に従事。非線形理論とその応用サブソサイエティ庶務幹事。IEEE CAS Society, Shikoku Chapter, Secretary。

ひとこと: 今年からソサイエティ担当幹事になりました。地方在住の幹事として, 各支部の特色を反映した記事などをニューズレターに掲載できたらと考えています。



庄司 一郎(事業担当幹事)

1969年生まれ。1994年東京大学大学院工学系研究科物理工学専攻修士課程修了。博士(工学)。1995~1999年 東京大学工学部物理工学科助手。1999~2002年 分子科学研究所分子制御レーザー開発研究センター研究員, 2002~2004年 同助手。2004年 中央大学理工学部電気電子情報通信工学科専任講師, 2005年~ 同助教授。専門: 固体レーザーおよび非線形波長変換デバイス・材料の研究応用物理学学会代議員, 同人材育成・男女共同参画委員。日本光学会光波シ

ンセス研究グループ幹事。レーザー学会マイクロ固体フォトニクス専門委員会委員。ひとこと: 専門はエレクトロニクスの分野ですが, ESSで活躍されている様々な方たちとの交流を図りつつ, 少しでもお役に立てるよう微力を注ぎたいと思っております。よろしくお願ひいたします。



田村裕 (英文論文誌編集幹事)

1959年埼玉県生まれ。新潟大学教育学部を卒業後、同大の工学系大学院を修了(学術博士)し、現在、新潟工科大学に勤務しています。専門はグラフ理論とその応用です。ひとこと：今年から論文誌は電子化され、多くの会員は実際に手に取って読めなくなりましたが、きちんと毎月発行されております。論文誌は、編集委員、査読委員の多大な協力によって成り立っており、冊子の重みは、その一端を表していた様にも思います。電子化により便利なところは多々ありますが、その重みが伝わらないのは少し残念でもあります。

古賀 弘樹 (電子広報担当幹事)

1967年生まれ。1995年東京大学大学院工学系研究科 博士課程修了。博士(工学)。1995-1999 東京大学大学院工学系研究科助手, 1999-2004 筑波大学機能工学系講師, 2004-現在 筑波大学大学院システム情報工学研究科 助教授。情報源符号化, および情報理論的暗号理論の研究に従事。電子情報通信学会英文論文誌 A 編集委員。情報理論とその応用学会 評議員。ひとこと：基礎・境界ソサイエティのメーリングリスト, およびホームページの管理を担当しています。2年目です。よろしく願いたします。

三宅 茂樹 (電子広報担当幹事)

1964年生まれ。1989年東京大学大学院工学系研究科修士課程修了。1989年NTT入社, 主として情報理論の研究に従事。途中, 5年間事業部に在籍。現在に至る。ひとこと：昨年度, ひさしぶりに研究所に戻りました。情報理論の分野ではLDPC符号や, NW coding など理論的な最適性を保ちつつも実効的な符号化・復号化が可能になりそうなテーマが新しくでてきており, 新鮮な気持ちで研究に取り組んでいます。

ニュースレター投稿のご案内

本ニュースレターは、基礎・境界ソサイエティ会員の皆様からのご投稿をお待ちしています。各号の**投稿締切日 (*)**までに、テキストファイル(*.txt など)、画像ファイル(*.jpg など)をソサイエティ誌担当幹事の酒井 哲也 tetsuya.sakai@toshiba.co.jp までお送りください。

投稿内容の例：

- ・ 論文募集・会議開催案内
- ・ 会議参加報告
- ・ 研究会紹介・活動報告
- ・ その他、基礎・境界ソサイエティに対するご意見など

今後の発行スケジュール

	投稿締切日 (*)	発行日
No.60:	2006/12/08	2007/02/01
No.61:	2007/02/23	2007/04/01

第 20 回 回路とシステム軽井沢ワークショップ論文募集案内

毎年、春に開催しております回路とシステム軽井沢ワークショップ(KWS)も、今回で20回目を迎えることとなりました。本ワークショップは、回路とシステムに関連した分野の研究者や技術者が集い、招待論文や投稿論文、パネル討論を通じて、分野内だけでなく分野間にまたがる境界領域の課題解決と、将来の研究分野の探求を目的としています。第20回回路とシステム軽井沢ワークショップは下記の要領で開催いたします。皆様からの積極的な論文投稿をお願い申し上げます。

実行委員長 阿部 正英 (東北大学)

開催案内

開催日: 2007年4月23日(月), 24日(火)

会場: 軽井沢プリンスホテル・西館

Web ページ: <http://www.ieice.org/ess/kws/>

企画セッションなど最新の情報は、Web ページをご覧ください。

論文投稿分野: 本ワークショップでは次の分野に関する一般論文投稿を歓迎します。

- ・ 非線形問題
- ・ 回路の数値解析
- ・ アナログ回路
- ・ デジタル信号処理
- ・ VLSI 設計技術
- ・ 離散システム理論

※新しいコンセプトの提案など、意欲的な論文の投稿も期待しております。

投稿申し込み: 邦文または英文の論文もしくはそれを的確に要約した抄録(論文の主旨および正当性を十分に判断できるもの)を Web ページより電子的にご投稿下さい(電子投稿の詳細は Web ページをご参照下さい)。ただし、査読のある論文誌等に発表されたものは対象外とします。図面を含み A4 版 3~6 ページ(形式自由)でご執筆下さい(論文集原稿の執筆要項は Web ページに掲載されています)。なお、論文集原稿も 6 ページ以内となりますのでご配慮下さい。査読の上、下記期日までに採否通知を行います。電子投稿が不可能な場合は、下記連絡先までご連絡下さい。

連絡先: 一色 剛 (論文担当幹事)

〒152-8552 目黒区大岡山 2-12-1 東京工業大学 大学院理工学研究科 集積システム専攻

Tel, Fax: 03-5734-2842 E-mail: kws-20paper@mail.ieice.org

日程: 投稿締切 2007年1月12日(金) 厳守

採否通知 2007年2月21日(水) 頃

論文集原稿 2007年3月8日(木) 必着

備考: 本ワークショップで発表された成果から別途投稿、査読の上、基礎・境界ソサイエティ英文論文誌 IEICE Trans. on Fundamentals に小特集を組む企画があります。

主催: 電子情報通信学会 基礎・境界ソサイエティ システムと信号処理サブソサイエティ 回路とシステム研究専門委員会, VLSI 設計技術研究専門委員会, 信号処理研究専門委員会, コンカレント工学研究専門委員会, 非線形理論とその応用サブソサイエティ 非線形問題研究専門委員会

共催・協賛: IEEE Circuits and Systems Society, Japan Chapter, 電気学会 電子回路研究専門委員会, IEEE Signal Processing Society, Japan Chapter, 電子情報通信学会 スマートインフォメディアシステム研究専門委員会



会場となる軽井沢プリンスホテル・西館